

此方から引張る事も必要、それをまあさう云ふ風に決めて居る心算であります。これを御決めになつた基は幼稚園時代の子供の心身發達に必要だ、ミ云ふので決めて下さつたと思ひますから、偏しない様に何の子にも一通りはそれをさう云ふ方面で發達させ度いと思ひます。決めた時間にやらなければいけないミ云ふ風になりまして……。

(倉橋) 其處で今のお二人のお話は色々異なる所もありませうが、和田さんの様なお考から出て坂内さんの様な御考から出たにしても歸着する所、保育項目を理論的には遊戯生活から出て居るものだけれども、幼稚園の實際としてお取扱ひになる時は一つくのものとして配當して行かう、ミ云ふ主義によつていらつしやるのですね。

所で何うですか。さう云ふお話を伺つて、それミ反對、ミ云ふミ喧嘩面ですけれども、それミ反對的な御考でやつていらつしやる處はありますか。白根さんの所はどんな風に其處らの問題は？。今の所に結びつけて。

## ○單位的にか生活的にか

(白根) 結び付きますか何うですか。私の方では大體豫定を一年分大きく立てまして、それを一學期に分けて、それを凡そ一月に分けて、一週間に細かく分けて居りませぬ。それで一つのまあ作業はこの月はこの作業を始めるとして居ります、それを折を見て順々にして行くものですから、一週間に大體何をするか、ミ云ふ事は全然初めから考へて居りませぬ。唯、今度この座談會の御通知を頂きましたから今年の分ミ昨年度分ミ何う云ふ風にして來たかミ云ふ結果を一寸數へて纏めて見たのでございますけれども、あのこれは一年保育の年長組ミ二年保育の年長組ミ年少組ミ三つに分けて今年のを調べて見ました。その本當の結果だけしか申上げられないのでございますが、四月から今迄のを一週間に分けて見ますミ項目の配當の數は毎週々々全然違つて居てちつとも同なしのがないんでございます。唯一學期一年分をずつミ數へて平均して見ますミ大體、殆ど同なし數で表はれて來るんでございますけれども、そんな風になつて居るものでございますから。

(倉橋) それをもう少し詳しくお話しして下さい。

(白根) それでは一寸例を、年長組で私の組の子供のな  
 んでございますけれども、四月の第一週間目には手技一談  
 話四觀察無し唱歌遊戯三。第二週間目は手技四談話三觀察  
 無し唱歌遊戯二第三週は手技四談話二觀察一唱歌遊戯三第  
 四週は手技二談話四觀察一唱歌遊戯四さう云ふ風に毎週變  
 つて居りますけれども、それを一學期間を平均して見ます  
 ミ手技四談話二觀察一唱歌遊戯三ミなつて居ります。二學  
 期もさう云ふ風にして一週間づゝ出しましたのを平均しま  
 すミ云ふミ、同なじ様に手技四談話二觀察一遊戯唱歌三ミ  
 なつて居ります。それを同なじ年長組でございますけれど  
 も二年居ります子供に就て調べましたら、矢つ張一週づゝ  
 の全然殆ど同じになつて居る週はないのでございますけれ  
 ども、一學期を平均致しますミ一年保育の年長組、手技四  
 談話二觀察一唱歌遊戯三、二學期も同なじになつて居りま  
 す。二年保育の年長組になりますミ少し變りますけれど  
 も、矢つ張同なじ様にして調べまして手技が三談話四觀察  
 二唱歌遊戯三、それが殆ど一學期二學期同なじ様に表はれ  
 て居ります。

(倉橋) さうしますミ、私頭が悪いからもう一つ伺はな  
 いミはつきりしないのですが、初めから計畫を配當的な  
 さらぬミ云ふ表はれ方は原則としては大變に……。随分今迄  
 のお話ミ違つた事があればあるものです。ずつミそれをさ  
 せて御覽になるミ……。流石に白根さんだけあつて、分け  
 登る籠の道は變れども……。其處には多少のあれですか。餘  
 り片寄らない様に、からくり、仕組、インチキ、生活ミ見  
 せかけて實は、ミ云つた様な手がありますか。自然にさう  
 旨く合ふミ云ふ點ですね。自然に。(笑聲)。

(白根) 本當に偶然に斯うなつて居るんでございます。  
 餘り私の組で前學期のも今學期のも同なじに出まして、他  
 の人の組のを調べましたら同なじになつたので、昨年度の  
 も調べましたら同なじに出るのです。

(倉橋) 偶然が度重なつた時に當然ミ言ひますが、さう  
 しますミ今の様なやり方でインチキがないミ仰有るミすれ  
 ば、子供の自然に任して置くミ云ふミ其處へ來た、ミ云ふ  
 ミそれは何を意味するか、ミ云ふミ、これ實に考へなけれ  
 ばならぬ事でありませう。偶然ミ仰有るミすれば貴女の幼

稚園ではそれが兎も角も必然云ふか、當然なつたので  
すね。その手技がいくつ、談話がいくつ、觀察がいくつ  
云ふ其處の所は若し貴女が單位的に配當しやう云ふ立前  
をおさりになつた時の配當比例も思召は適つて居りま  
すか、大體？。その一回つゝ平均云ふ様なお話から見  
るに、偶然揃つて居る所は何ですけれども。割合は？。

(白根) 大抵自分で思つて居るのにも合つて居るんで  
ございますが。私大體幼稚園に這入りました初めから唱歌遊  
戲、唱歌遊戲は續けて大抵一緒に致しますが、それは隔日  
一週三回、お話は此方に居りました頃、自分で一回して實  
習生にも一回させて大體さう云ふ風にして居りましたのが  
今も習慣になりました二回位したいと思つて居ります。手  
技の方は別に、手技の方だけはちつとも考へて居ないんで  
ございますけれども。談話は少くとも一回は此方で指導的  
に扱はうと思つたものを必ず一つはさせ度いと思つてして  
居ります。さうしますと、唱歌遊戲談話は大抵自分の思ふ  
通りになつて居るのでございますが、唯手技の方が四回出  
て居りますのは大抵毎日二つ位づゝ何か續けてやつて、土

曜日は一つ位、ですから全體で十一回になりますので、丁  
度手技が四回になる三十一回になるのでございます。大抵  
思ふ通りになつて居るのでございますが。

(倉橋) 和田さんが御歸りにならない中にもう一つ捉へ  
ておき度いと思ひますが、伺つて居る三和田さん坂内さん  
單位配當主義で、今の様な何云ふのですか！それさつ  
つそのポイントに於ては、原則は違つて、保育項目に對す  
る態度がね。さつと深く又考へて見るに保育項目も自由生  
活の中から出たものだ云ふ事は今の保育項目を單位的に  
はつきり見做す見方が如何にも遊戯生活から保育項目が  
出て居る事を側面的に立證して居る様な事で、其處では大  
いに理論の根本に於ては合致して居る所がありますが、其  
處で一週ちやん配當的に行つておいでになる様な立場か  
ら今の様なのを――御遠慮はないが――御遠慮なくやつつて  
下さいまし。(笑聲)

(和田) 今のを伺つて見るに表だけは一週間に二回さか  
三回さか云ふ様に配當されるに決めては居られない様です  
けれども、然し矢張大體心構へをもつて居られる様ですね。

語りそれを露骨の申上げたゞけです。今、白根さんに伺つたのもその方は自分の心構へ、これは内證にしておいて云ふ風に。

(倉橋) 其處を私も突詰めたのですがインチキでないといはれた。(笑聲)

(和田) 心構へをもつて居られ、斯う云ふ風に一つの課程になつて居るに、實際の仕事を毎日繰返して行く上には何か心構へを持つて居なければ安心してやつて行く云ふ事は出来ない。まあそれをほんの心構へにして持つて居つて實際の子供の活動の要素、それに當嵌めて行く云ふ様なやり方をして結局は同じ事になると思ひます。私が二回凡そ二回さ決めたからと言つて學校の課程の様に必ず二回やるのではない。ですからその時の主體によつても違ひますし、或は年中行事によつても違ふし天氣の加減によつても變更されるし、實際の生活云ふものに則してやつて行く爲には臨機の處置をしなければならぬ。ですからさう云ふ所から行けば結局は同じ事になると思ふ。さう云ふ様に大體の心構へを持つて居る云ふ事は課程として已むを

得ない事かと思ふ。今のお話を伺つても私の方針を大して違つて居ないと思ふ。

(倉橋) 和田さんは和田さんでいかぬ。ア、和田さんでやつて下さい。座談會が沈んでいけない。對角線は最も(和田氏と白根氏の席が大机の對角線にあたつてゐる)……對角線的にこれを取扱つて座談會を賑やかして頂きたい。何うですか、心構へに仰有つたから其處は何うです。矢張りあれですか。子供の生活から出るが儘に、斯う言ひ度いところでせうけれども、まゝに、ですか？遊戯唱歌二回とか三回とか、何う云ふ機會を捉へていらつしやるのですか。今日は遊戯をしよう、としてしたのが二回……。

(白根) 一寸此處に出て居ります表で二回の事も三回の事も四回の事も五回の事も……それが雨でも降りましてお遊戯をしたい云ふ様なきつかけに向いて來ました時にするだけでさう云ふ様な結果になつて參りました。

(和田) 多少今週は遊戯が少なかつたからしよう、云ふ様な事も交つて居りませうか。

(白根) 少なかつたから云ふ事は別に考へないので

ざいますけれども、唯あの子供のしたいのに任せます。女の子になんか毎日しないを聞かせぬ。無理にさせる。云ふ事よりはしたいのを止めさせる事がある位でございます。すけれども。

(坂内) 私、倉橋先生にお叱りを受ける心算で参つたのでございますが……。

(倉橋) 私が?……(笑聲)

(坂内) 私も此の夏講習を受けて、終りの日には休みまして承らないのでございますが、随分苦んだ譯でございます。毎日色々皆なにも随分相談致しました。致しましたが、さうも相談して考へて見る。先生の御趣旨で豫定を立て、おく様な風でいけませぬが、好きな事をさせる。云ふ譯にも行きませぬし、手技を決めお話を決め唱歌を決め、それを決めさせよう。云ふ事になる。一つほかないのを代り合つて何うしても使はなければならず、先生の仰有る様に生活本位に中々参りませぬ。やつて居ります事は今和田さんが仰有つた様に何回して行く。云ふ、設定的に見えますけれども、心持がさうでない、随分協議をしたのですけれども。

さも、それをやつて居りますが。

(倉橋) 何うかくれぐも私の考を本體にしてこの會をして居りませぬから。それでしたら又別に私特に御集りを願つて一場の訓辭をします(大笑)。今日はさう云ふ譯でありませんから……。

(坂内) さう云ふ譯ではございませぬが。

(倉橋) のみならず私も實は其處に迷つて居ります。惱んで居ります。柄にもないがね……。その惱んで居ります點は、今白根さんに和田さんが御問掛けになつた點で、實に私は面白く拜聴して居つたのですが、古武者が血氣に早る若者に向つていらつしやる様に面白く承つて居たのですが、其處の所は、私は自分自身として保育項目は云ふけれども、何れもこれも基を糺せば自由遊び。云ふ親から生れて来たものですけれども、その中で保育項目。云ふ一人立ちをし、元服してからも、親の方にしよつちう、くつゝいて居るものもあり、一人立ちのものもあり、五人の兄弟が其處らの意味に於ていろく違ひますまいか。例へば手技製作。云ふ様な事になります。これは自由遊びの製作

も指導した製作もちつとも違はない、親子一緒にやつても、

自分一人でやつても違はない。ところが唱歌遊戯になりま

す、鼻唄を唱歌とも出来ず、何だか手をぶらぶらやつて

居るのを遊戯とも言はぬと思ひますから、遊戯になつて來

るに其處の所にあの五人の兄弟が差別をもつて居ると思

ふ。今唱歌遊戯を何うするか、云ふお尋ねに白根さんは

「いえ、その」云か言つて居りましたが、實際はあれでせ

うな。打つちやつておいたら物を作り出した、作り出すべ

きプロジェクトの中に置かれて自由手技でも指導手技で

も……。つまり生活をインテンシファイして行くに較

べまして、唱歌遊戯の方は、手を動かして踊つて居るか

ら、ずる／＼に遊戯室に行くと言つた様な事が、空論的理

想論としては別として實際としては違ふと思ふ。やつぱり

自由遊戯の中から所謂、今日云ふ唱歌遊戯にもつて行くに

は、設定ミや言はん、心構へミや言はん、此方へ此方へ引

張つて行く様な事が遊戯の場合には少し違ふと思ふ。觀察

の場合は手技ミ遊戯ミの間にあるものと思ふ。一つ／＼に

就て其處らの問題を兩方に秀で、いらつしやるオーソリテ

イーに伺ひ度いと思つて居りますが。私なんかと生活々々

さいふのも自分乍ら生活本位に傾いた論だ云ふ事を承知

して居ります。其處でまあ保育項目をその關係に於て區分

した上でないさあの問題が本當は徹底して來ない。それは

何れ伺ふ事にして。何うですか、ガソリンカーに乗つて、

千葉からいらした渡部さん、其處の問題は。

(堀) その前に白根さんに聞き度い。唱歌遊戯、手技、

何回云ふ様には決めないけれども、一年間なり一學期の

總計がどれだけ、云ふ材料の方から必然的に回数が出て

來る様になつて居やしないか。

(白根) それは私……。

(堀) 一週これを何回やる云ふ事から材料を選ぶので

なく、材料を選ぶから必然的に保育項目が回数が決る。そ

れだから自然一學期通して考へる云ふミ、大體回数が決

つて來る云ふ様になつて來やしないか。

(倉橋) この場合の材料は唱歌遊戯の種類、白根さんが

持つていらつしやる種類云ふもの、それが大體貧弱だら

うから(笑聲)……。

(土川) 大變に私いゝお話で。

(倉橋) お話、いゝ所に來ました。

(土川) 非常に拜聴して居ても面白いものを御出し下さつたと思つて喜んで居りますが、併し子供の朝、幼稚園に來て遊んで居る。それによつてその子供の活動して居る氣分を、それを唱歌遊戯に或は製作に談話に云ふ風に導いていらつしやる結果がさうなるのでございますか。

(白根) さうなつて居ります。

(土川) さうするさ一人で一組を持つて居る場合、その子供が三つにも、三方面にも氣分が別にして出て來た、云ふ場合は何うなさいますか。

(白根) これは先程申上げるのを落したのでございますけれども、私の組として全部の子供が這入りきれないでも、兎に角五人なら五人の子供が繼續した作業でございませうが、昨日の作業の續きをしたさ云ふ事になりますさ、全體の子供がしたいさ云ふ事ではないのでございませうけれども、ですから同じ時刻に片一方では本を読み、片一方で手技をしました時は手技と談話と兩方の數をさつて計算したので

ございませう。

(倉橋) 保育項目を一單位として先づ子供を離れて、机の上でさ申してはなんです、保育項目を今一つの位置に決めておく場合には機械的に理路整然さ、完全に行くと思ひますけれども、生活の中から捉へて行く、自分でも心構へて知るや知らずや、やつて行く場合は其處から先きの關係は、それ程はつきり、いきにくい性質を備へて居ると思ひます。

(坂内) 子供が作業なり談話なりに分れた時後の残りの子供が三つも四つも分た時はその一つを何うしてお置きになりますか。若しもいくつにも分れました場合、そちらの方の事は？

(白根) でもこれは前から繼續して居ります時で、唯子供が來て朝、勝手に塗繪をしたりお繪書きを毎日しない日はないのでございます。さう云ふのは入れてないのでございます。それはお遊びの中に。

(坂内) 自由遊びの中に。みんな御種類になりますか。お遊びの中には、みんなものがございしたら、こちらで

計畫して今の所迄？。

(白根) 動物園を手技ミして繼續して居ります。そちらを致しました時は手技。

(坂内) その他に繪を書いたり、塗繪をしたり、ミ云ふ時には？

(白根) それはこちらで觀察なんかで、這入りました時は入れてございますけれども、その他に子供が勝手に來て、「折紙して頂戴」ミ言つて十人なり、十二、三人の塊つて折紙致しましたり、塗繪をしたり、そんなのは入れてないのでございます。毎日の事でございます。

(和田氏用事あり退席)

(倉橋) 和田さんが歸られましたので對角線の線が近付いて坂内さんになりましたが和田さんミ御一緒の事ミして—そのある點に於ては—單位で計畫なさる場合には今の白根さんの御質問から來た、組の全體ミしてお出しになる、その回数。

(坂内) 一回ミか二回ミか、兎に角こちらから心構へを、今度はお話をしよう、ミ云ふ心構へを持つて致します。そ

の時にそちらに行つてお話を聞いて居る人も、聞いて居ない人もございますが—私の方は一つの幼稚園が一家族ミなつて居りますから、何の先生に飛びついて行つても遊んで頂ける様になつて居りますから、何方か一人先生が何かして居りますミ、其處へ集つて繪を描く、ミ云ふ事になりま

す。さうしますミ、何の子供か、しない子供ミ、した子供ミ斷然解らないものがございますから、皆な組の人が一緒

ミ云ふ譯ではございませぬが、組ミしての單位を決めておきます。自分の組の方はお話は二度お遊戯はこの組は二度ミ云ふ事に決めて居ります。

(倉橋) 組で、ミ云ふのも、若し古いにしよへ何處かどこでやりましたやり方の様に、その計畫以外にこぼれ出て來る事を絶対に許さない、ミ云ふ劃一のやり方、その場合は極めて簡單な問題になつて來るのですね。それから劃一でない場合に於ては御計畫は御計畫、併し實際に於てはこぼれ出ていゝ形はかなりある。ですから何の組ミ云ふのがあつて、その組で一週二回やらうミしてしましても、一人々々の子供に就てはさう行つて居るか何うか。



(坂内) 矢つ張その組がお粘土だ、ミ云ふミその組が這入つて来るミ云ふ風に習慣的にはさうなつて居ります。お客様は参りますけれどもその組が餘計参ります様に。

(倉橋) 坂内さんの方のもう一つの計畫、繼續的な方のごくに就てさうぞ……

(坂内) 繼續的な計畫をちやんとして居るのはその組全體が、その生活に則して來れば、劃一を基ミせず揃つて行かないでせうか。あれもこぼれ出て行く事を求めて行く、斯う言つた様な、お話を伺つて居ります。

## ○保育項目の前に先づ幼

### 稚園は

(倉橋) 私の説明した事は保育項目を如何なる見方をすべきか、ミ云ふ事は計畫論としては對角線的に色んな意見が立ちますが、子供が實際に何うなつて行くか、實際に於ては何うなつて居るか、ミ云ふ事迄行くミその幼稚園の保育項目に這入る前の幼稚園のやり方ミ言ひますか、斯う出て行くのをこぼれるミ見るか、そのこぼれようミして居る

のが本體で、いくつかが集つて來たのは勿怪の幸ひミ見るか、そこらで大本で變りが出て來さうですね。其處でこれはその位で……大變難しくなりますから。追々。

先刻千葉のガソリンカーは停電しましたが、いかゞですか。(笑聲)

(渡部) 何ミ申上げていゝか。伺つて頂き度いのですけれども、申上げ憎いので。

(倉橋) 聞き度いけれども分らない。

(渡部) 昨年邊りから悩みが重なつて……。

(倉橋) 悩みが重つて、自分で笑ひ出したりする人はありやませぬ。(笑聲)

(渡部) 私が園長さまで主任さまでちやんミ何も彼も計畫的にやつたら、ミても素晴らしいものが出來やしないかと思ひます。

(倉橋) 大氣焔ですね。(笑聲)

(渡部) 堀先生には少し耳を塞いで頂かなければいけませんぬかもしれませぬが、さうも保育項目ミ云ふものを斯う小學校の教材的に考へていらつしやる方が、方々から見